

# 2017年新春インタビュー：盛年会の未来像

盛年会・初代会長

## 蛭田恵二さんに聞く



インタビューで盛年会の夢を語ってくれた蛭田さん

昨年発足した盛年会。

今、東京土建の各支部で注目の会となっている。盛年会の活動内容や担っていく役割、そして盛年会の未来について盛年会初代会長の蛭田恵二さんに語ってもらいました。

(インタビュアー・白倉和行)

### 盛年会の発足

白倉 盛年会という会が東京土建の各支部で注目を集めているということで、多摩西部の盛年会ではどういうことに取り組んでいるのか皆さん興味を持っています。初代会長の蛭田さんにお伺いします。

発足のもとになったのは？ 発起人は誰なんですか？

蛭田 特別に発起人というのはいませんが、言い出しは私であったりそのほか数名で、その気持ちを檜山委員長が汲み取ってくれて後押しをしてくれて発足という流れになりました。

きっかけとしては、分会長をやる機会があり、参加する方が毎回同じ顔ぶれだと感じ高齢の方が多く後継者からシニアの橋渡し役がいなくて感じたからです。

白倉 非常に不思議に思ったのは、今までシニアと後継者の間がなかったということ。

もっと早く出来なければならぬ会ですよ！

蛭田 私もそう思います！

白倉 働き盛り、子育て世代の活躍の場がない。私も発足式には参加したのだけれど…… (笑)

### 分会を超えた交流を手助け

蛭田 勉強会に行くと私はよく言うのだけれど、後継者世代を終えたらシニア世代になるのはおかしいと思っている。バトンをつなぐ役を果たす会を作らないと、と考えていたんです。

白倉 組合の形って最近変わってきて、昔は運動を皆でワッシュイワッシュイやっていた時代からサークルのような感覚になってきている。こういう時は逆に活動をしっかりやらなきゃならないと思うんだけど、ここについては盛年会はどう考えていますか？

蛭田 今は分会同士の交流がない、盛年会は分会を超えた交流の手助けをする会にしたいんです。事業所分会に所属する会社にいたことがあるんだけど、土建が何をしているのかまったく知らなかった。そこで私が土建の保険や共済を説明する機会があったんだけど、その説明をしたところよく理解してくれた。そういう活動がとても大切だと思う。

白倉 そうそう！土建に一番必要なのは若い人達をどんどん加入させようってことよりも、まず私達を分かち合おうことだよ。私も蛭田さんと同じジレンマを感じていました。

盛年会ではさまざまな交流会をやっていますがどういったスタンスで取り組んでいますか？

蛭田 組合に入るときに役をやらされるから入りたくないっていう人もいます (笑)

とにかく今加入している組合員が楽しまないと新しい加入はないと思います。

白倉 あと10年蛭田さんが盛り上げると幹がしっかりするから期待したい！

各世代いるけれど若い世代、高齢世代との交流などいいですよ。盛年会主導で！

蛭田 いろんな話を部会でもしているのでも来、再来年結果はすぐにはでないけど段々と実ってくる。

### 盛年会の未来像

白倉 これからの未来の盛年会はどのように考えていますか？

蛭田 問題もあって、会議や活動に出てこない名前だけの会員もいるんです。私としては名前だけの会員増は目指していません。他の分会同士の交流を図りながら、しっかり会に参加できる会員発掘をして土台を作っていきたいですね。土建全支部で盛年会が旗揚げできれば最高ですね。



1時間を越えるインタビューもあつという間に時間が過ぎた(白倉和行)

## 昭島市 立川市 技能功労者表彰

立川市では、同一の業種に30年以上従事した65歳以上の方で、その優れた技術で市民生活に貢献された



上段お二人目が齋藤榮一さん  
下段右端が岡部一彦さん

方に対し、技能功労者として褒章を授与されました。その中で支部から齋藤榮一さん(けやき分会)と岡部一彦さん(高松分会)が表彰されました。

また、昭島市においても技能や技術を磨き後進の指導育成に貢献したとして支部から栗野万壽夫さん(玉川分会)と原島重夫さん(拝東一分会)が表彰されました。



上段左からお二人目が栗野万壽夫さん  
下段左からお二人目が原島重夫さん

### 50周年記念 長期連載企画

## ザ・組合員③



鶴岡誠一前委員長

この後の震災の東北に一度も支部として活動が出来なかったのが、藤井主任書記に東北の出身地に行こうと提案し、釜石に行くこととなりました。それなりには結果は残せたと思います。

その後6年間委員長を務め、副委員長の末永さんを次期委員長にと決めていましたが、病気もあり家族の反対で断念、また主任書記の藤井君も家族の病気と、本人も病気を背負いながらの勤務で辞める結果となってしまいました。最終的には自分がこのまま続けることとなりました。本音は本部への中執が出来なくなったとき交代をと思いました。

私が委員長になって2年目位から役員で飲む機会が増えました。本当はその場に書記も入って会合が持てる会にしたかったのですが、その部会

なかなか都合がつきませんでした。

まず組合運動は、楽しく、そして勉強する部会はなるべく出席し学ぶことの必要性を感じる組織でした。その中で次の組織の仲間達のトップを話し合いながら決めました。

次の世代は檜山と考えをまとめておきその後も3年を過ごしました。現在委員長になった本人も必死に立場を理解し頑張っている行動していると思います。

西多摩委員長、菅原さんと一緒にパレスホテルで、ごくろうさん会を開いていただき100人以上の参加で大きな思い出になりました。最後のあいさつで子、孫達に、今生きている親として絶対に戦場に送るようなことはさせてはならないと訴えました。ある書記さんから今までで一番いい話を聞けたと言われたことが心に残っています。

これからは土建には関わって行かなければならない身でもあり、お礼の運動をしていけたらと思います。

ありがとうございました。

(前委員長・鶴岡誠一)